

札幌市における冬道での自己転倒による救急搬送の特徴分析 Analysis of Pedestrian's Falls on Winter Road in Sapporo

○永田泰浩¹，金田安弘¹
 Yasuhiro NAGATA, Yasuhiro KANEDA

1. はじめに

札幌市の冬道での自己転倒による救急搬送者数は、1995年度以降、毎冬期（以後、12月～3月を”冬期”と称す）600名以上に達している。2012年度冬期は、1317名が冬道での転倒によって救急搬送され、データのある1983年以降で最多となった。2012年度冬期から2017年度冬期までの6冬期の間には救急搬送者数が1000名を上回る冬期が4回あった。一方、2018年度冬期以降は、2018年度が886名、2019年度が688名と1000名を下回った。本報告では2020年度冬期の転倒による救急搬送者の状況を整理するとともに、救急搬送の発生の特徴を分析した。

分析にあたり、救急搬送者データをご提供いただいた札幌市消防局様に深く御礼を申し上げます。

2. 2020年度冬期の動向

2020年度冬期の自己転倒による救急搬送者数は836名であり、3年連続で1000名を下回った。図1には月別の救急搬送者数を示した。12月の救急搬送者数は133名と少なく、図のように25冬期で初めて150名を下回った。一方で2月の救急搬送者数は315名と、図のように25冬期で初めて300名を上回った。12月の救急搬送者数が少なかった理由として、札幌市内の雪の降りはじめが遅く、降雪、積雪が少なかったことが考えられる。

2月の救急搬送者数が多くなった理由の一つとして、2月2日に救急搬送が多発したことがある。令和3年2月2日の日救急搬送者数は77名で、表1に示すように、日救急搬送者が過去25冬期で3番目に多かった。札幌の気象データを確認すると前日1日の午後から気温が高い状態が続き、2日の3時と4時には気温が6℃以上となっている。5時以降は気温が低下し、午前8時から気温がマイナスになり、12時が-2.0℃、15時は-4.8℃と気温が急激に低下した。救急搬送者数は午後になって増加しており、14時台から19時台までの6時間で45名、17時台が最多で11名の方が自己転倒により救急搬送者数されていた。

表1 過去25冬期の救急搬送者多発日

順位	年月日	救急搬送者数
1	2014年12月21日	163人/日
2	2014年12月22日	84人/日
3	2021年2月2日	77人/日
4	2012年12月5日	57人/日
5	2018年3月9日	56人/日
6	2016年12月28日	53人/日
7	2009年2月1日	46人/日
8	2015年12月27日	45人/日
9	2001年2月22日	43人/日
	2017年12月6日	43人/日

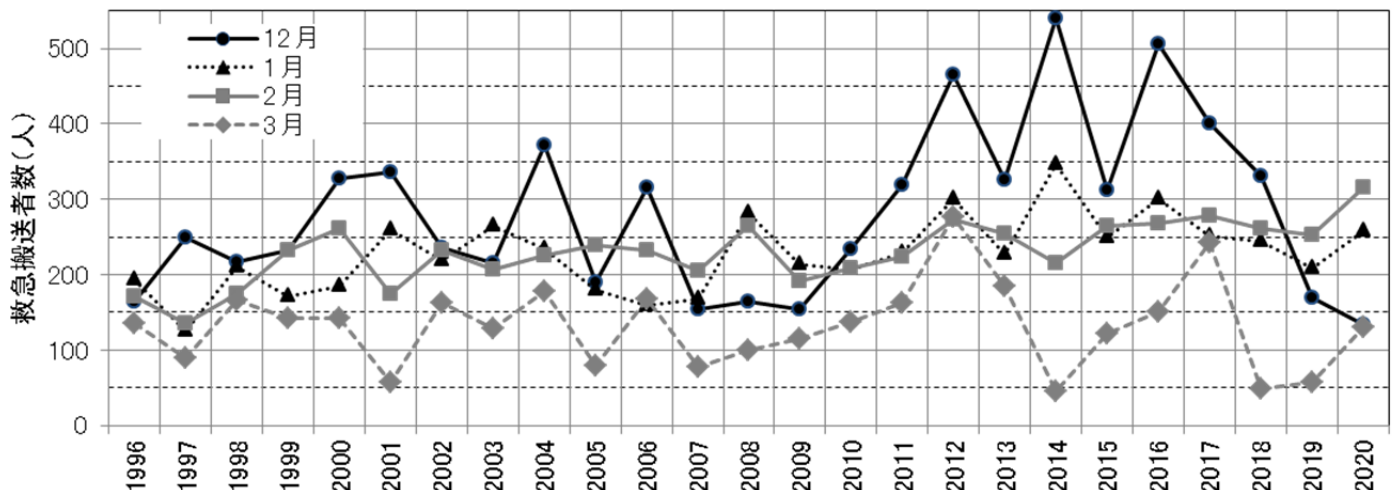


図1 札幌市における月別の救急搬送者数(25冬期:1996年度~2020年度)

参考文献

- 1) 永田泰浩，金田安弘，2015：転倒による救急搬送集中日の特徴分析．雪氷研究大会（2015・松本）講演要旨集．137

¹ (一社)北海道開発技術センター

Hokkaido Development Engineering Center